

## Point 065

221 “Have you ever seen a bear?”

□□□ “Yes, I saw ( ) in Ueno Zoo three years ago.”

- ① it ② that ③ one ④ him

〈東洋大〉

222 I will lend Jane the money if she needs ( ).

□□□ ① one ② it ③ the one ④ so

〈関西外大〉

223 “What kind of watch shall I buy?”

□□□ “Get ( ).”

- ① one Swiss ② French one  
③ a Japanese one ④ American watch

〈東海大〉

224 “It’s hard to look up words in this new dictionary.”

□□□ “Then why don’t you use ( ) you were using before?”

- ① a one ② it ③ one another ④ the one

〈共立女子大〉

225 Yoshiko likes red wine better than ( ).

□□□ ① a white one ② white one  
③ white ④ the white one

〈園田学園女子大〉

226 These shirts are too expensive. May I see some cheaper ( )?

□□□ ① ones ② one ③ any ④ other

〈拓殖大〉

221 「クマを見たことがある？」

「ええ、3年前に上野動物園で見たわ」

222 もしジェーンがそのお金を必要としているのなら、それを貸しましょう。

223 「どんな腕時計を買ったらいいでしょうか」

「日本製を買いなさい」

224 「この新しい辞書で単語を調べるのは大変だよ」

「それなら、前に使っていたものを使ったらどう？」

225 ヨシコは白ワインより赤ワインが好きだ。

226 これらのシャツは高すぎます。もっと安いものを見せてもらえますか。

## Point 065 : it と one と ones の用法

## 221 one の用法—it との相違

標準

- ▶ **one** は可算名詞(数えられる名詞)の反復を避ける代名詞で、「a+可算名詞の単数形」を表し、不特定のものを指す。したがって、本問は不特定である a bear を表す③ one を選ぶ。
- ▶ **it** は「**the+単数名詞(可算名詞および不可算名詞)**」を表し、特定のものを指す。したがって、① it を選ぶと、it = the bear となり、「そのクマを見た」といった内容になってしまう。

## 222 it の用法—one との相違

基本

- ▶ 本問の it は the money を指し、「その特定のお金」を表す。

## 223 one の用法—形容詞がつく場合

標準

- ▶ one に形容詞がつくと「**a+形容詞+one**」の形になる。
- ▶ ② French one, ④ American watch は、それぞれ a French one, an American watch なら可。

## 224 one の用法—関係代名詞節で限定される場合

発展

- ▶ **one** は名詞と同様に、関係詞節や修飾語がついて限定されると定冠詞がつく。本問の the one は the dictionary を表し、直後に目的格関係代名詞の which [that] が省略されている。
- ▶ a one といった表現は存在しない。よって①は不可。

## 225 one の用法—one を使えない場合

標準

- ▶ **one** は不可算名詞(数えられない名詞)を受けることはできない。wine は不可算名詞。
- ▶ 正答の③ white は wine を省略した形。white wine としても可。

## 226 ones の用法—形容詞がつく場合

標準

- ▶ ones は one の複数形で、one と同様に定冠詞がついたり、「**形容詞+ones**」の形にもなる。

**＋プラス** ones は one のように単独で用いる用法はなく、常に形容詞や関係詞節などによって修飾される。

These dolls are prettier than *the ones* I bought in Paris.

(これらの人形は私がパリで買ったものよりもかわいい)

She has a new bag and *several old ones*.

(彼女は新しいバッグを1つと古いバッグをいくつか持っている)

227 The new designs are more elegant than the old ( ).

- ① it ② that ③ ones ④ them

〈拓殖大〉

## Point 066

228 The population of Tokyo is larger than ( ) of Osaka.

- ① those ② which ③ one ④ that

〈東京経大〉

229 日本の教育システムはアメリカ合衆国のものとはまったく違います。

- The educational system of Japan is ( from / different / quite / the / of / that / United States ).

〈中央大〉

230 Cars imported from other countries are a lot better than ( )

- made in the country.

- ① all ② them ③ those ④ which

〈立教大〉

231 The writer thinks that in Japan decisions are often made in ways

- which ( from / of / those / are different / some other Asian ) countries.

〈センター試験〉

232 ( ) present at the meeting supported the plan.

- ① They ② That ③ Who ④ Those

〈岩手医科大〉

233 Americans expect honest, sincere answers to their questions, and

- they will take answers as ( ).

- ① it ② so ③ such ④ well

〈中部大〉

227 その新しいデザインは、古いデザインよりもさらに上品です。

228 東京の人口は大阪の人口よりも多い。

230 他の国から輸入された車はその国で生産されたものよりもずっといい。

231 日本では、他のアジア諸国とは異なる方法で、しばしば決定がなされると、その著者は考えている。

232 会議に出席していた人たちは、その計画を支持した。

233 アメリカ人は、質問に対して正直で誠実な答えを期待しているし、また答えをそういうものとして受けとめるだろう。

## 227 ones の用法—一定冠詞がつく場合

標準

▶ 本問の the old ones は the old designs を表す(→226)。

## Point 066 : that, those, such の用法

## 228 that の用法

標準

▶ that は名詞の反復を避ける代名詞で、「the+単数名詞(不可算名詞および可算名詞の単数形)」を表す。本問の that は the population を表す。

▶ **プラス** 代名詞 it も「the+単数名詞」を表すが、it は常に単独で用いる。それに対し、that は後に修飾語を伴うことができる。

## 229 that の用法

標準

▶ 英文の基本構造を、A is different from B とし、B に the educational system を表す that(→228)を用いて、that of the United States とまとめればよい。

## 230 those の用法

標準

▶ those は名詞の反復を避ける代名詞で、「the+複数名詞」を表す。本問の those は the cars を表す。

▶ **プラス** 代名詞 them も「the+複数名詞」を表すが、them は単独で用いる。一方、those は後に修飾語を伴うことができる。that と it の関係の複数形のパターンが、those と them の関係になる。

## 231 those の用法

標準

▶ 先行詞が ways である関係代名詞 which の後を are different from とし、those(→230)を用いて、those of some other Asian と続ければよい。なお、those は ways を表す。

## 232 「人々」を表す those の用法

基本

▶ 代名詞の those には「人々」の意味を表す用法がある。

▶ those present 「出席者」はイディオムとして押さえる。

## 233 such の用法

標準

▶ such は「そのような人[物/事]」を表し、as such で「そういうものとして」の意味を表す。

▶ **プラス** as such は通例、名詞の直後に置いて「それ自体としては」の意味で用いられることもここで押さえておこう。

Many people believe that wealth, as such, does not matter much.

(富それ自体は、さほど重要でないと信じている人が多い)

227 ③ 228 ④ 229 quite different from that of the United States 230 ③

231 are different from those of some other Asian 232 ④ 233 ③

## Point 067

234 トムは、そのときまで計画の重要性について考えていなかったとわ  
 かって驚いた。

(it / that / to / Tom / realize / surprised) he hadn't thought  
 about the importance of the plan until then. 〈小樽商大〉

235 さよならも言わず、彼女がアメリカに行ってしまったのは変だと私  
 は思いました。

I thought (for / that / America / strange / she / it / without  
 saying / had left) good-bye. 〈東京家政大〉

236 私が商売に成功したのは叔父のおかげです。

I (my uncle / it / owe / succeeded / that / to / in / I) business.

〈成蹊大〉

## Point 068

237 He didn't have a computer of his own, so they let him borrow  
 (      ).

- ① their    ② theirs    ③ them    ④ themselves

〈武蔵大〉

238 (      ) was a present from my father.

- ① My old camera of this                  ② My old this camera  
 ③ This my old camera                    ④ This old camera of mine

〈センター試験〉

## 整理 25

## 人称代名詞

		主格	所有格	目的格	所有代名詞
1 人称	単数	I	my	me	mine(私のもの)
	複数	we	our	us	ours(私たちのもの)
2 人称	単数	you	your	you	yours(あなたのもの)
	複数	you	your	you	yours(あなたたちのもの)
3 人称	単数	he	his	him	his(彼のもの)
		she	her	her	hers(彼女のもの)
		it	its	it	—
	複数	they	their	them	theirs(彼らのもの)

\* it の所有代名詞はないことに注意。

237 彼は自分専用のコンピュータを持っていなかったのに、彼らは自分たちのコンピュータを彼に貸してあげた。

238 私のこの古いカメラは、父からのプレゼントでした。

## Point 067 : 形式主語や形式目的語で用いる it の用法

## 234 it の用法—形式主語

標準

- ▶ 本問は、it を形式主語として立てられるかがポイント。動詞としては他動詞 surprise 「…を驚かせる」を用い、It surprised Tom とまとめ、it が受ける to realize that を続ければよい。

## 235 形式目的語の it—think it+形容詞+that 節

標準

- ▶ 本問は、形式目的語 it を用いた think it+形容詞+that 節「…は～だと思う」を用いるのがポイント。it は that 節を受ける。

**+プラス** it が to 不定詞を受ける think it+形容詞+to do 「…するのは～だと思う」もここで押さえておこう。

## 236 形式目的語の it—owe it to A that 節 「…はAのおかげだ」

標準

- ▶ 形式目的語 it を用いた owe it to A that 節「…はAのおかげだ」を用いるのがポイント。it は that 節を受ける。この表現は、owe A to B 「AをBに負っている/AはBのおかげだ」という頻出表現を前提としている。

## 整理 24

## 形式目的語を用いた頻出表現

owe it to A that 節 「…はAのおかげだ」

make it clear that 節 「…を明らかにする」

make it (im)possible for A to do 「Aが…するのを(不)可能にする」

## Point 068 : 所有代名詞の用法

左頁の【整理25】をまずは確認しよう。

## 237 所有代名詞—theirs 「彼らのもの」

標準

- ▶ 本問の theirs は their computer を表す。  
▶ ④ themselves にしないこと。「彼ら自身を貸した」ではおかしい。

## 238 所有代名詞—this old camera of mine 「私のこの古いカメラ」

標準

- ▶ my などの所有格は a, this, these, that, those, no, some, any などと一緒に並べて名詞を修飾することはできない。  
▶ 「私のこの古いカメラ」は my this old camera や this my old camera とは表現できない。所有代名詞を用いて、「不定冠詞または冠詞相当語(a, this, these, that, those, no, some, any など)+名詞+of+所有代名詞」の語順にする。「私のこの古いカメラ」は this old camera of mine となる。なお、この of は「…の中の」の意味を持つ前置詞。

## Point 069

239 Although Ken and I wanted to eat out last night, ( ) of us had enough money.

□□□

- ① either ② neither ③ no one ④ no

〈東海大〉

240 “Would you like either of these hats?”

□□□

“No, I don’t want ( ), thanks.”

- ① both ② either ③ neither ④ none of these

〈湘南工科大〉

241 There are many shops on ( ) side of the road.

□□□

- ① any ② another ③ either ④ both

〈京都産大〉

242 Fortunately, ( ) of the three school children were hurt yesterday.

□□□

- ① either ② neither ③ nobody ④ none

〈立命館大〉

243 I wanted some cake, but there was ( ) left.

□□□

- ① none ② no ③ any ④ much

〈駒澤大〉

## Point 070

244 ( ) of these four students has written an essay.

□□□

- ① Both ② Every ③ Each ④ Some

〈姫路獨協大〉

239 昨晚ケンと私は外食したかったのだが、二人とも十分なお金の持ち合わせがなかった。

240 「これらの帽子のどちらかをいかがですか」

「ありがとうございます。でもどちらもほしくありません」

241 この通りの両側にはたくさんのお店がある。

242 運がよかったことに、昨日は3人の児童のうち誰もケガをしなかった。

243 ケーキがほしかったが、まったく残っていなかった。

244 これら4人の学生は、それぞれ作文を書いた。

## Point 069 : either, neither, none の用法

## 239 neither の用法—neither of A

標準

- ▶ **neither** は「どちらも…ない」の意味を表す。neither は both に対応する否定語で、対象は2つ[2人]であることに注意。
- ▶ 対象が3つ[3人]以上の場合には **none** を用いる。
- ▶ **neither of A** は「Aのうちどちらも…ない」、**none of A** は「Aのうちどれも…ない」と押さえる。

## 240 either の用法—not... either

標準

- ▶ **not... either** は「どちらも…ない」の意味で **not... either=neither** である。
- ▶ I don't want either は、neither を用いれば I want neither となる。

## 241 either の用法—on either side of A

発展

- ▶ 代名詞 **either** が肯定文で用いられた場合、「どちらか一方」の他に「どちらとも」の意味にもなる。
- ▶ 本問の either は「どちらの…も」の意味で、名詞 side を修飾する形容詞用法。なお、**either** の後に来る名詞は必ず単数形。
- ▶ ④ both にしないこと。both の後の名詞は複数形。したがって both sides of the road ならば正しい表現となる。

## 242 none of A—neither of A との相違

標準

- ▶ **none of A** は対象が3人以上、**neither of A** は対象が2人(→239)。本問は「3人の児童」が対象。

## 243 注意すべき none の用法

標準

- ▶ **none** は先行する名詞を受けて「no+名詞」を表し、「何も…ない」の意味になることがある。本問の none は cake を受けて no cake を表す。

## Point 070 : each, both, any, every の用法

## 244 each の用法—each of A

標準

- ▶ 代名詞 each は、通例 **each of A** の形で「Aのめいめい/各々」の意味を表す。Aには必ず、定冠詞や所有格で限定された名詞や、**us** や **them** などの目的格の代名詞が来る。

!! 注意 **each of A** は単数扱いであることに注意。

+プラス ② Every は不可。every は単独では用いず、必ず「every+単数名詞」(→248)の形で用いる。④ Some も不可。some of A でAに複数名詞が来る場合は複数扱いだから(→p.157【整理40】)、動詞は have written とならなければならない。



245 ( ) parents will come to Gifu next Monday.

□□□

① His both

② Both his

③ His both of

④ Both his of

〈岐阜聖徳学園大〉

246 You can catch ( ) of these buses. They all go to the city center.

□□□

① any ② every ③ most ④ some

〈久留米大〉

247 Tom and Mary became ( ) through mutual friends.

□□□

① acquainted each other

② acquainted themselves

③ acquainted with

④ acquainted with each other

〈日本大〉

248 “If you won the prize, what would you do with the money, Julie?”

□□□

“I would like to visit ( ) in the world.”

① every country

② all country

③ every countries

④ every places 〈ノートルダム清心女子大〉

249 この錠剤を6時間ごとに1錠、飲んでください。

□□□

Please take one of these pills ( ) ( ) hours. 〈愛知学院大〉

250 Susan has a private piano lesson ( ) weekday: Monday,

□□□

Wednesday, Friday.

① every one

② every other

③ every third

④ day after

〈名古屋女子大〉

245 今度の月曜日に、彼の両親が岐阜に来ることになっている。

246 これらのバスのどれにでも乗ることができます。みんな都心に行きます。

247 トムとメアリーは共通の友人を通じておたがいに知り合いになった。

248 「もしその賞金をもらったら、そのお金で何を、ジュリー？」

「世界中のすべての国に行ってみたいわ」

250 スーザンは、月・水・金と、平日の1日おきにピアノの個人レッスンを受けています。

- 245 **both** の用法—**both his parents** 標準  
 ▶ **both** や **all** の前に所有格、冠詞、および **these**, **those** などが先行することはない。  
 ▶ 本問の「彼の両親」であれば、①の **His both parents** とは言わず、②の **Both his parents** となる。  
 +プラス **both his parents** は **both of his parents** の **of** が省略された形と考える。
- 246 肯定文の **any** の用法—**any of A** 標準  
 ▶ 肯定文中で用いられる **any of A** は「Aの中のどれ[誰]でも」の意を表す。  
 +プラス 否定文中の **any of A** は「Aの中のどれ[誰]も…ない」の意味を表す。  
 ▶ ③ **most**, ④ **some** は不可。第2文の **They all go to the city center.** 「それらはみんな都心に行きます」と合わない。
- 247 **each** の用法—**each other** 「おたがい」 標準  
 ▶ **each other** 「おたがい」は代名詞であって、副詞句ではない。  
 ▶ 本問は **become acquainted with A** 「Aと知り合う」の **with** の目的語Aに **each other** が入った形。  
 ▶ ① **acquainted each other** にしないこと。**each other** が副詞句だと覚えていると①を選んでしまう。  
 +プラス 同意表現の **one another** も代名詞。
- 248 **every** の用法—**every** + 単数名詞 標準  
 ▶ 「**every** + 単数名詞」(→ 244)が本問のポイント。  
 ▶ ② **all country** は **all countries** なら正答。
- 249 **every** の用法—**every six hours** 「6時間ごとに」 標準  
 ▶ 「**every** + 基数 + 複数名詞」は「…ごとに」の意味になる。基数の後の名詞は必ず複数形にすることに注意。  
 +プラス 同意表現の「**every** + 序数 + 単数名詞」もここで押さえる。序数を使う場合は必ず単数形であることに注意。「6時間ごとに」であれば、**every sixth hour** となる。
- 250 **every** の用法—**every other A** 「1つおきのA」 標準  
 ▶ **every** には **every other A** で「1つおきのA」の意味を表す用法がある。  
 ▶ 本問の **every other weekday** は「平日の1日おきに」の意味。

## Point 071

251 “Kathy and her sister are so alike.”

□□□ “Yes, I can’t tell one from (      ).”

- ① another ② other ③ others ④ the other

〈センター試験〉

252 I’m going to sell this car and get (      ) one.

□□□ ① another ② new ③ different ④ other

〈桃山学院大〉

253 I have three sons; one lives in Chicago and (      ) live in New York.

□□□ ① other ② others ③ another ④ the others

〈姫路獨協大〉

254 Some of my classmates like volleyball and (      ) enjoy tennis.

□□□ ① another ② other ③ others ④ the other

〈玉川大〉

255 それを信じることと、それを証明することは別問題です。

□□□ Believing it is (      ) (      ), and proving it is (      ).

〈鹿児島大〉

### 整理 26 相関的に用いる不定代名詞の4つの基本パターン

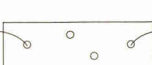
(1) **one—the other**

one  **the other**

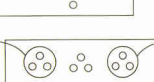
(2) **some—the others**  
(one—the other の複数形のパターン)

some  **the others**

(3) **one—another**

one  **another**

(4) **some—others [some]**  
(one—another の複数形のパターン)

some  **others [some]**

\* 「残りすべて」は **the others** (1つなら **the other**) と考えればよい。

251 「キャシーと彼女のお姉さん[妹さん]はとても似てるね」

「ええ、私は2人を区別できないわ」

252 この車を売って、別の車を買うつもりです。

253 私には3人の息子がいますが、1人はシカゴに住んでおり、あとはニューヨークに住んでいます。

254 バレーボールが好きなクラスメートもいれば、テニスを楽しむクラスメートもいる。

## Point 071 ∴ 相關的に用いる不定代名詞の用法

問題 251 ~ 254 は、左頁の【整理26】の内容を正確に押さえればよい。

- 251 **one** と相關的に用いる **the other** 「残り1人[1つ]」 標準
- ▶ 対象が2人[2つ]の場合は、一方を **one** で、もう一方を **the other** で表す(→【整理26】の(1))。other は代名詞で「他の物[事/人]」の意味を表す。残りが1人なので、定冠詞の **the** で **other** を限定するのである。
- ＋プラス** ① another は不可。**another** は「**an+other**」と考える。other に不定冠詞の **an** がついているわけだから、本問の場合は「不特定の別の姉[妹]」を表してしまう。
- ▶ **tell A from B** 「AをBと区別する」は重要イディオム(→974)。
- 252 **another** の用法 標準
- ▶ 売る予定の「この車」以外の「不特定の別の車」であるから、「**an+other**」の観点より、① **another** を選ぶ(→【整理26】の(3))。
- ▶ 本問の **another** は形容詞。
- ▶ ② **new**, ③ **different** は **a new one**, **a different one** なら正答(→223)。
- 253 **the others** 「残り全部」の用法 標準
- ▶ **the others** は「残り全部」を表す(→【整理26】の\*)。本問は「3人のうち、1人を除いた残り2人」だから④ **the others** を選ぶ。
- 254 **some ... and others** ~ 「…なものもあれば～なものもある」 標準
- ▶ **some ... and others** ~ は「…なものもあれば～なものもある」の意味を表す(→【整理26】の(4))。some ... and some ~ としても可。
- ▶ **and** の代わりに、対比を表す **while** 「…，一方～」を用いることもある。
- 255 **A is one thing, and B is another** 「AとBは違うことである」 標準
- ▶ **A is one thing, and B is another** は「AとBは違うことである」という意味になる。**A is different from B** との言いかえで問われることも多い。

256 Passengers came in one after ( ).

□□□

- ① another ② one ③ others ④ two

〈姫路獨協大〉

257 If you want to get it, you'll have to pay ( ) ten dollars.

□□□

- ① another ② other ③ others ④ the another

〈国士館大〉

258 彼には人の気持ちがわからない。

□□□

He doesn't understand the feelings of ( ).

- ① other ② others ③ peoples ④ another

〈流通科学大〉

## Point 072

259 He is smart enough to be able to answer ( ) questions I ask him.

□□□

- ① almost ② almost of ③ all most ④ most of the

〈東京経大〉

260 ( ) the seats are reserved today.

□□□

- ① Almost all of ② Almost of  
③ Almost ④ The most of

〈同志社大〉

261 ( ) Japanese like to eat rice.

□□□

- ① Almost all ② Most of ③ Almost ④ Almost of

〈拓殖大〉

### 整理 27

## most, most of などの紛らわしい表現

以下のように整理して覚えておく。

(1) **most+名詞=almost all+名詞** 「(限定されない)大半の…」(⇒261)

(2) **most of the+名詞(⇒259)=almost all (of) the+名詞** 「(限定された特定の)…の大半」(⇒260)

256 乗客が続々とやって来た。

257 もしそれを買いたいのなら、あと10ドル支払う必要があります。

259 彼は私が尋ねるほとんどの質問に答えることができるほど頭がいい。

260 今日は、ほとんどすべての座席が予約済みです。

261 ほとんどすべての日本人は、お米を食べるのが好きです。

- 256 **one after another** 「次から次へと／続々と」 標準  
**＋プラス** **one A after another** は「次から次へとやって来るA」の意味を表すイディオム。
- 257 **another**＋複数名詞—**another ten dollars** 発展  
 ▶ 通例 **another** は「an＋other」の観点から、原則として後に複数名詞を伴うことはないが、本問の **another ten dollars** 「もう10ドル」のように、例外的に複数名詞を伴うことがある。これは ten dollars を、形は複数形だが意味的には「10ドルというひとつのまとまったお金」といった単数のニュアンスでとらえていると考えればよい。
- 258 **others** 「他人／他の人たち」の用法 標準  
 ▶ **others** には無冠詞で「他人／他の人たち」(= other people) を表す用法がある。なお、**the others** (= the other people) は「何人かいるうちの残りすべての人」を表すことに注意(→ 253)。

### Point 072 : most, almost の用法

問題 259～261 は左頁【整理27】の内容を押さえればよい。

- 259 **most** の用法—**most of A** 英作 標準  
 ▶ **most of A** は「Aの大半／ほとんど」の意味を表す。  
 !! 注意 **most of A** のAには、必ず定冠詞や所有格などで限定された名詞や目的格の代名詞が来る。  
 ▶ ② almost of は不可。almost は副詞。
- 260 **almost** の用法—**almost all (of) the**＋名詞 標準  
 ▶ 「**almost all (of) the**＋名詞」(of は省略されることもある)は「(限定された特定の)…のほとんどすべて」の意味を表し「most of the＋名詞」と同意。  
 ▶ ④の the most of の形は存在しない。
- 261 **almost** の用法—**almost all**＋名詞 英作 標準  
 ▶ 「**almost all**＋名詞」は「most＋名詞」と同意表現で「(限定されない)ほとんどすべての…／たいていの…」の意味を表す。  
 ▶ ② Most of は不可。**most of A** のAには限定されたものが来る(→ 259)。③ Almost も不可。**almost** は副詞なので、直接は名詞を修飾できない点に注意。ただし nothing や everything, everyone などの前には置くことができる。

## Point 073

262 “Will the library be open on Saturday?”

□□□ “( )”

- ① To get some books.                      ② I love to read.  
 ③ I suppose so.                              ④ Not many people.                      <九州国際大>

263 That wasn't a very wise thing to do, was it? I ( ).

□□□

- ① don't suppose                              ② don't suppose it  
 ③ suppose it not                              ④ suppose not                              <青山学院大>

## Point 074

264 The policeman asked him about the crime but his mother said he had ( ) to do with it.

□□□

- ① nobody    ② anything    ③ anybody    ④ nothing                      <中央大>

265 I got the book for nothing.

□□□

- ① free of charge                              ② for a charge  
 ③ at a charge                                  ④ with a charge                              <関西外大>

266 (a) My computer isn't working properly.

□□□

- (b) There is something ( ) ( ) my computer. <聖心女子大>

## 整理 28

## that 節の代用表現としての so と not の使い方

- (1) think, believe, expect, guess, suppose は次の 2 通りの表現が可能。  
 I *don't* suppose *so*. = I suppose *not*. 「そうでないと思う」
- (2) hope と be afraid には、直接 not を続ける形しかない。つまり I *don't* hope *so*. や I'm *not* afraid *so*. とすることができない。  
 I hope *not*. 「そうでないことを望む」  
 I'm afraid *not*. 「残念ながらそうでないと思う」

262 「図書館は、土曜日は開館していますか」  
 「開館していると思います」

263 そうしたのはあまり賢いことではなかったね。たぶんね。

264 警察官はその犯罪について彼に尋ねたが、彼の母親は、彼はそれには何も関係していないと言った。

265 私は、その本を無料で手に入れました。

266 (a) 私のコンピュータはきちんと動いていない。

(b) 私のコンピュータはどこか調子が悪い。

## Point 073 : that 節の代用表現としての so と not

問題 262, 263 を理解した上で、左頁の【整理28】で発展的内容を確認しよう。

## 262 so の用法—肯定の that 節の代用

標準

- ▶ **so** は特定の動詞 **hope, think, believe, expect, guess, suppose** や **be afraid** などの後に置き、肯定内容の **that 節** の代用をすることがある。  
▶ 本問の **so** は **the library will be open on Saturday** を受ける。つまり、**I suppose so.** は **I suppose that the library will be open on Saturday.** と考える。

## 263 not の用法—否定の that 節の代用

標準

- ▶ **not** は、特定の動詞 **hope, think, believe, expect, guess, suppose** や **be afraid** などの後に置き、否定内容の **that 節** の代用をする。つまり **I suppose not.** は **I suppose that that wasn't a very wise thing to do.** と考える。

## Point 074 : something, nothing を用いた慣用表現

## 264 have nothing to do with A 「Aと何の関係もない」

標準

- ▶ **プラス** **have something to do with A** 「Aと何らかの関係がある」、**have much to do with A** 「Aと大いに関係がある」、**have little to do with A** 「Aとほとんど関係がない」もここで押さえておこう。これらの表現は、**have** の後の語で「関係性の度合」を示すと考えればよい。

## 265 for nothing 「無料で」= free of charge

標準

- ▶ **プラス** **for nothing** は「無料で」以外にも、「むだに」(=**in vain / to no purpose**) の意味でも用いられる。  
**He did all this work for nothing.**  
(彼はこの仕事をすべてやったがむだだった)

## 266 There is something wrong with A 「Aはどこか調子が悪い」

標準

- ▶ **プラス** 同意表現の **There is something the matter with A, Something is wrong with A, Something is the matter with A** も頻出。  
▶ **プラス** **something** を用いた他の慣用表現として、**There is something+形容詞+about A** 「Aにはどことなく…なところがある」や **something of a+名詞** 「ちょっとした…/かなりの…」もここで押さえる。

*There is something noble about him.*

(彼にはどことなく高貴なところがある)

*He is something of a musician.*

(彼はなかなかの音楽家だ)



## Point 075

- 267 The party was great. We enjoyed (        ) very much.  
□□□ ① us ② with us ③ ourselves ④ by ourselves (九州産大)
- 268 Please help (        ) to some of the cakes on the table.  
□□□ ① myself ② itself ③ yourself ④ ourselves (札幌学院大)
- 269 You'll be staying with us for a month, so just (        ) at home.  
□□□ ① you're supposed                      ② you're leaving  
③ make yourself                          ④ get used to (福井工大)
- 270 I've been living (        ) myself since my brother went abroad to  
□□□ do research.  
① from ② at ③ into ④ by (早稲田大)
- 271 (        ) ourselves, I'd actually rather stay home tonight.  
□□□ ① As ② With ③ From ④ Between (明治大)
- 272 He was beside himself with rage.  
□□□ ① a bit angry                              ② a bit relieved  
③ very relieved                              ④ very angry (立命館大)
- 273 勤勉は、それ自体幸福の豊かな泉である。  
□□□ Hard work (        ) itself is a rich source of happiness. (奈良産大)

## 整理 30

## 注意すべき「前置詞＋再帰代名詞」の慣用表現

- **by oneself** (=alone) 「ひとりで／独力で」(⇒270)
- **to oneself** 「自分だけに」
- **for oneself** 「独力で／自分のために」
- **in itself / in themselves** 「それ自体／本質的に」(⇒273)
- **in spite of oneself** 「思わず」
- **between ourselves** 「ここだけの話だが」(⇒271)
- **beside oneself** 「われを忘れて」(⇒272)

267 パーティーはすばらしかった。私たちは大いに楽しんだ。

268 テーブルの上のケーキを自由に取って食べてください。

269 私たちの家で1か月間、過ごすことになるのだから、くつろいでください。

270 兄[弟]が研究のために外国に行っていて以来、私はひとりで暮らしている。

271 ここだけの話だが、実のところ、今夜はむしろ家にいたいのだ。

272 彼は怒りでわれを忘れた。

## Point 075 : 再帰代名詞の用法

整理 29

## 再帰代名詞

人称 \ 数	単数	複数
1人称	myself	ourselves
2人称	yourself	yourselves
3人称	himself, herself, itself	themselves

- 267 再帰代名詞が目的語—**enjoy oneself** 「楽しむ」 基本  
 ▶再帰代名詞は他動詞の目的語として用いられ、自動詞的な意味を作ることがある。本問の **enjoy** は他動詞で、**oneself** を目的語にとり、**enjoy oneself** で「楽しむ」という自動詞的な意味になる。成句表現として押さえる。
- 268 **help oneself to A** 「Aを自由に取って食べる／飲む」 標準  
 ▶この表現の **help** は「(人を)助ける」ではなく、**help+人+to A** の形で「A(料理など)を人に取ってやる」の意味。したがって、**help oneself to A** は「Aを自分自身に取ってやる」がもともとの意味。**help oneself** で「取る」という自動詞的な意味になる。成句表現として押さえる。  
 ▶命令文の主語は2人称なので、再帰代名詞は③ **yourself** を選ぶ。
- 269 **make oneself at home** 「くつろぐ」 標準  
 ▶**at home** には「くつろいで」(= comfortable) (→1145)の意味がある。したがって、**make oneself at home** は「自分を楽にさせる」がもともとの意味。成句表現として押さえる。
- 270 前置詞+再帰代名詞—**by oneself** 「ひとりで／独力で」 標準  
 ▶再帰代名詞は前置詞を伴って慣用表現を作る。以下、問題273までは慣用表現を問うもの。最後に左頁の【整理30】でしっかり確認しておこう。
- 271 **between ourselves** 「ここだけの話だが」 標準  
 +プラス 同意表現の **between you and me** も重要。
- 272 **beside oneself (with rage)** 「(怒りで)われを忘れて」 標準
- 273 **in itself** 「それ自体／本質的に」 標準